

別記様式（第3条関係）

会議録（1）

会議の名称	令和7年度桶川市公民館運営審議会第1回定例会
開催日時	令和7年4月21日（月） (開会)午前9時30分 (閉会)午前11時30分
開催場所	桶川公民館 研修室1、2
議長	宮崎 和也 委員長
出席委員 (委員)	委員長 宮崎和也、副委員長 梅原とも子 委員 矢澤等、中林邦彦、星野昇、湯浅哲朗、石田文子、 小野原典子
事務局職員 職名及び氏名	桶川公民館長 兼 加納公民館長 岸哲也、主任 加藤潤也、 主任 尾崎祐未子、主任 深田麻衣 桶川東公民館長 森田光昭 加納公民館 主査 青木政人、主任 増山幸子、主任 大内淳 川田谷公民館長 白子隆之、主任 三村紋子、主任 関根豊、 主任 山本栄
会議事項	(1)前回会議録の承認 (2)報告事項 ①人事異動について ②令和6年度講座実績について ③令和7年度講座年間計画について ④加納公民館サークル発表会について ⑤東公民館サークル発表会
協議事項	なし
その他	・公民館運営審議会委員関係の会議について
決定事項	議事1 承認
配布資料	会議次第及び説明資料（資料1～4）

議事録署名

署名人

印

## 会議録（2）

議事の経過	
発言者	発言内容
公民館長	<p>次第1 開会宣言 定足数に達しているので、令和7年度桶川市公民館運営審議会第1回定例会を開会する。</p> <p>次第2 あいさつ 教育長 公民館運営審議会委員長</p>
委員長	<p>おはようございます。3月の加納公民館、4月の東公民館のサークル発表会どちらも参加して、特に昨日の桶川高校のダンス部ですが、はつらつと踊っていて、公民館に若い人がきたらこんな雰囲気になるんだなと感じた。振り返ってみると、2期で計4年審議委員務めているが、4年前にも教育長から若年層という話があり、10代の中高生をなんとか呼び込めないかということで、議論を進めてきているが、いつも議論が中途半端に終わっている。中学生は忙しい、という話がでると、正論なので、みんなしょぼんとなってしまう。それをわかって中高生を呼ぼうとしたんじゃないのと私は思う。だからもっと深く審議する必要があるのではないかとずっと思っている。運営審議会も定例会だけではなくて、もっと進化する必要があるのではないかなど感じる。今日の定例会も元気よく頑張っていきましょう。</p> <p>公民館長</p>
委員長	<p>次第3 議事（1）前回会議録の承認について、承認することに意義はあるか。</p> <p>全員『異議なし』で承認された。会議録として市ホームページに掲載する。</p>
事務局	<p>次第3（2）報告事項①人事異動について 【資料1】に基づき説明</p>
事務局	<p>次第3（2）報告事項②令和6年度講座実績について 【資料2】に基づき説明</p> <p>東公民館では公民館サークルが減っていく中でNo.22リコーザー講座が新規サークル発足。一昨日のサークル発表会にも出演。全体の反省点として定員に満たない講座がいくつかあった。理由を検討して、今年度生かしていきたい。</p>

議事の経過	
発言者	発言内容
事務局	加納公民館では下半期は地域課題の分類として、和の文化に触れるというテーマでNo.18 お箏体験講座を実施し、12名（子供7名、大人5名）参加。後日、参加した大人2名が他館にあるお箏サークルへの体験希望があった。
事務局	川田谷公民館ではサークルの「べに花ウッド」による木工講座。中学生企画を2講座開催。No.16 思い出アート講座は雪のため3/2に延期し実施。2～8歳を対象とし、楽しかったことの思い出を絵にして書いてみる、というもので15名参加。企画した中学生はコーディネーターとして熱心に参加者と関わり、積極的な様子だった。
事務局	桶川公民館講座では趣味教養、文化にかかわる講座を実施。中学生企画講座はさいたま中央読売新聞にも掲載され大変良かった。No.21 色鉛筆で塗る花の色イロ、No.22 民謡講座の2つが新規サークル発足。
委員	定員に対して申込者数が10倍を超える講座があるが、落選者向けに複数回の開催をしたらさらに参加率があがると思う。講師の都合もあるが、複数回開催を依頼できないのか。
委員	公民館講座は娯楽と趣味中心の講座だけで本当にいいのか。もっとヘビーな内容のものがあつてもいい。大学の講師派遣や民間企業でも、もう少し重たい講座を開催してほしい。中学生企画講座は少しずつ回転していると感じる。社会体験に来た生徒たちがアイディアを出し彼らに企画をプレゼンさせて、非常にいいと思う。できればその講座を開催して何回か彼らに体験をさせ、課題を取り上げてPDCAサイクルをまわしてプラスアップさせていく、そんな体験ができたらもっと良いと思う。社会に出てもなかなか体験できないことがこの中学生時代にできるというの非常に良いことなので、ぜひやっていただきたい。 実績表をみてもなんとなく中学生企画講座、参加数が少ない。講座内容を中学校に依頼してどんなものだったら参加するのか、本気で生徒にアンケートをして情報収集をやるべきだと感じる。PRの方法も、運営側は自分たちはやっていると思っていても必要な人に必要な情報が伝わっていくのが難しいことであるし、日程は部活がない日を選んで参加できるよう工夫しているし、定例会で審議してさらに良い方へと向かっていけたらと思う。

議事の経過	
発言者	発言内容
委員	去年の5・6月に主催が高齢介護課、会場は公民館で開催している脳活教室に参加した際、参加者へのアンケートがなく、参加者からの感想や評価の共有がない。毎回参加すると宿題が出て、謎解きの宿題も出て難しい。難易度が高いので、講座のレベルが高齢者に適当かな、と感じる。
委員	ほとんどの講座が7月～12月の期間に集中していて、4～6月が圧倒的に少ない。これは何か理由があるか。
事務局	広報原稿提出期限が2か月前。4月開催の場合は2月、5月開催は3月、6月開催は4月に原稿提出期限があり、翌年度の予算が正式についていない時期に未確定の予算を載せていいものかというのがあって、あまり講座を計画しないでいた経緯がある。
事務局	秋から実施となると各館の講座開催時期が重なる。次年度予算が正式についていない時期ではあるが5、6月に講座を企画している館もある。
委員	年度が変わることによる財政的な措置など薄々気が付いてはいたが、その事情は了解するにしても、12か月の中で4分の1の3か月分、動けずに時間が過ぎるのはもったいない。行政のシステムの問題も絡むのかもしれないが、技術的にそこをクリアできるのであれば、ぜひ工夫して企画を考えてほしい。
事務局	3～5月に各館発表会準備があるが、企画できないのは職員側の都合である。夏休み子どもワールドも電子申請を利用した申込みの準備があり、同時並行で動いているがやり方はあると思う。
委員	サークル発表会は公民館主催ではなく、実行委員会形式。サークルが自主的に取り組み、実行委員会を組織してというような形で進めるというものだがそれは建前だらうなと。結局事務的な仕事は公民館としてやらなければならない実態があるのだと思う。ぜひこれからもやってほしいと思う。個人的な思いはあったとして、やはり4～6月は講座を組むことは難しいのか。
事務局	職員の計画性や、やる気の問題。秋口から、翌年度のことを考えて計画していくべきなので、ご指摘の通り工夫すれば実施できること。今後は4～6月にも企画できると思う。

議事の経過	
発言者	発言内容
事務局	4～6月の講座を企画し担当職員が翌年度異動する可能性がある。企画して講師と調整し作ってきた講座を責任持って実施したいと考える職員もいると思う。別の職員に引き継いでそれが異動してきたばかりの職員だとしたらその職員に負担をかけるなど。そういったことを思う職員もいるのではないかと。
委員	民間企業でも人事異動があった際、営業担当は自分のエリア担当の引継ぎをやって、異動があったから成績が上がりませんでしたではない。だから必死になって引継ぎをする。前任者が一生懸命企画したことを一生懸命引き継がなきやいけない。そういう思いや熱意が伝わらないと、後任者も中々馬力がかかる。4月に異動があるかもしれないというのを的を得ていないと感じる。
委員	加納公民館の分類地域課題No.6 お箏講座は、地域の課題として新しい方向性、テーマ性をもった「和の文化」というのは、公民館として掲げたのか、地域課題としてなのか伺う。
事務局	地域課題として掲げたもの。加納公民館ではお茶などの伝統文化のサークルがなくなってしまった経緯がある。サークル発表会でお箏の演奏とお茶席を設けたことや、市民よりお箏2面の寄贈があり、お箏講座の企画と合わせ伝統文化を加納公民館で実施する試み。 夏休み子どもワールドで何年もお箏講座を開催してきた。市文化団体連合会に在籍する地元の講師であり、後継者が育たないということで相談もあった。今年度4月に親子のお箏体験、6月には体験講座の開催を予定。文化団体連合会の協力もあり、お箏だけではなく、民謡や三味線、尺八の講師もいる贅沢な講座を予定。
委員	川田谷公民館の中学生企画講座「思い出アート」について、前回の会議でも詳しく説明があり、対象が幼児と保護者だったので参加した。コーディネーターの中学生が本当にすごかった。子供たちと会話をするのにテーブルをまわって動いて、自然体で「これ、どういう感じ」、とコミュニケーションを取っており、感動した。とても良かった。中学生がどんどん発言するということではなくて、バランスが良かった。講座の結果は実績表から見て取れる人数だけではないなと実感した。人数が増えるのはいいことだが、企画実施のために事前にたくさんの人と中学生自身も一緒にになって色々なことを考えている課程が感じられていい企画だなと。

議事の経過	
発言者	発言内容
	<p>講座終了後に参加者の保護者に聞いたことだが、子供が絵を描いて台紙に貼って発表するという流れでの場面で、台紙を職員が配布する際にどっちにするという際、女の子にピンクかな？という声掛けだった。ジェンダーバイアスに配慮した声掛けで、保護者の方も気になったとのことで、そこは大事にしてもらいたいと思う。</p>
委員	<p>評価の際に参加者がたくさん集まったから、という視点での人気のある講座と、参加者が多くはないけれど社会的に課題となるものや地域課題を考える上で大事にしたい、参加者中々増えないけどこの講座は大事という内容があると思う。</p>
委員	<p>現実的にあると思う。公民館のいわば市民の自治意識を涵養する場だと思って参加者が増えなくても、大事だから続けるのだと迷わずに維持して継続してほしい。</p>
事務局	<p>桶川公民館での中学生企画「べに花博士になろう～料理編～」は定員には満たなかつたが、中学生が大変楽しく作っていた。「パパと一緒に料理講座」でも父親と小学生が桜餅やちらし寿司を作り、料理の心得のあるお父さん、そうでないお父さんも各テーブルでチームワークができ、とても良い雰囲気に感じた。定員は満たなくとも、表面上の人数だけにとらわれずにみていただければと思う。</p>
	<p>次第3（2）報告事項③令和7年度講座計画（案）について 【資料3】</p>
事務局	<p>東公民館ではNo.16「桶川高校ダンス部夏休みダンスレッスン」は、昨年初めて実施。高校生の方もまたぜひ講師をやりたいとのことで今年も開催を予定。No.27. 28は既存サークルの会員数が減っているため、1日体験を行って、活性化を図る。</p>
委員	<p>サークル発表会のステージに桶川高校ダンス部が出演していて、どうやって出演依頼をしたのか、このような講座をやっているつながりがあってということを聞き驚いた。</p>
委員	<p>年々展示会場が寂しくなっている。会員は高齢化で辞めていくし、各サークルでお試し参加があっても入会までは定着が難しい。どういう手段があるのかわからないが、ぜひ強力に推進してほしい。</p>

議事の経過	
発言者	発言内容
事務局	加納公民館では夏休み子どもワールド、その後は季節に合わせたもの、例年開催している講座を予定。
事務局	川田谷公民館では6月のべに花まつり開催に合わせて、ぶちサークル発表会を開催。3サークル(展示2、発表1)出演予定。
事務局	桶川公民館では文化・趣味、様々な分野での企画を開催予定。昨年度好評であった小学生かきぞめ教室も予定。5月にサークル発表会を開催する。
委員	子どもワールド向け、一般向けのテーマは過去の経験もあるから企画案が出るが、中学生企画講座は公民館側から提案でこの内容で企画運営をする時は過去あったのか。
事務局	ない。
委員	子供や一般向け講座で経験値を積み上げていくことも良いが、圧倒的に利用の少ないティーンエイジャーに向けて仕掛けていくことを考えないといけない。
委員	子どもワールドについて、子どもが公民館に関わっていくことがかなり定着し実績もあり、非常に充実していると思う。特別支援学級の生徒も参加できる企画が2年程続き、それも安定してきていると思う。加納中学校長が桶川高校の学校評議員を担っており、同じように桶川西中学校長が桶川西高校の評議員を依頼され、つながりもある。桶川高校や桶川西高校との連携も小中高の連携という視点からも、今回のダンス部の講座はかなり伝統的なイベントになってくると思う。それぞれの校長がそれぞれの評議員の立場で市民の立場からありがたいと思っていることは伝えていきたい。 社会体験チャレンジ事業の企画がより活性化するためにはという視点で、皆さんの意見を聞きながら考えておりました。企画者の中学生が参加者に自ら積極的に関与して一生懸命説明をしたという話を聞いて、有難いと思った。ただ参加者が少ないので気になった。広報の仕方の充実について公民館と教育委員会と校長会のメンバーとも共有はしていきたい。せっかくいい企画があっても部活動の試合やテスト期間であると保護者は勉強させたいという気持ちがある。実施日が決まった段階である程度学校にも協力をもらうような、情報共有が必要だと思う。部活動の顧問は部としての目標を持っていて、3ヶ月先に練習試合の予定を組まれていたりすることもある。中学生の参加しやすい日程確保が難しい面もあるが、

議事の経過	
発言者	発言内容
	広報の仕方を充実させていきたいと感じる。中学生は実際の費用面や集客率などの視点というのはまだまだ足りないかなと。どうしても自分の興味関心を何か楽しくできたらなという段階かもしれないが、場合によってはそういった現実的な視点も持たせながら、その生徒の力にもよるかもしれないが、企画力を育てていくという意味ではチャレンジ事業がいい経験になるかなと思う。中学生が参加する場合にはワンコイン位の費用が参加しやすいのではと思う。
委員	公民館の実績と自分たちの責任で何かできないかと思うところに解決策があるような気がする。開催時期やテーマを公民館側から取っ掛かりを何か行うべきなのではないか。
委員	社会教育法にもあるように地域住民の教育ということをうたっている。高齢化が進むことで、これからも公民館の役割が益々重要になってくる。利用者の年齢層は65歳以上が6割を占めるという情報がある。公民館の情勢が高まって、さらに社会教育の場になっている。実績表をみて公民館の講座は高齢者の年齢層に合わせた講座が少ないよう感じた。
事務局	いかに若い人から公民館ユーザーを増やしていくかを目標にしているので高齢者含み、若年層もターゲットにした内容を多く企画している。
委員	そういう意味では公民館の役割とは何か逆行しているよう感じた。
委員	計画全体をみて、趣味と娯楽しかないよう感じた。公民館利用者の年齢の統計を埼玉県や全国で公表しているが、夏休み期間が入れば、若年層の人数が急増した結果になっていたり、統計期間がまばらで比較ができない。 多いところは60歳以上が80%以上の統計もある。公民館では若年層が少ないので取り組みしているが、他市での統計分類区分をみると、中学生は20代という分類。そういう意味では桶川の取り組みは一歩進んでいる。PRの方法が他の自治体ではSNSやYouTube、フェイスブックをやっていて、場所によって採用しているSNSが違う。ソーシャルメディアを使う方法は進んでいるやり方だと思う。
事務局	講座実施の際に小学生や親子など子供が対象の際に、一部の職員は市公式XやLINEに掲載して情報発信している。実際講座参加者に聞くと何人かその投稿をみたという人が少しいるので効果がある。

議事の経過	
発言者	発言内容
委員	時代の流れとしてデジタルを活用した情報発信に向かいがちなのは理解できる。だが SNS というのは情報を取りに行く側としては非常に有効なツール。ただ紙の良さって受け取った側が全く意識しないのに、ポンと目の前に現れる、それが紙のいいところだと。
委員	必要な時にたまたま目の前に来ればいいが、必要な情報が来ない時もあるので、そこが弱いところでもあるかと。
委員	SNS が無効だと言っているわけではなくて、そっち一辺倒になることに対して違和感がある。紙媒体での PR も大事にしてほしい。
事務局	今後も紙媒体は大事だと思っている。引き続きちらしを作成し PR する。
事務局	次第 3 (2) 報告事項④加納公民館サークル発表会について 展示 7 団体、発表は一般団体含み 6 団体。来場者 1 日目 143 人、2 日目 102 人計 245 人。昨年比 7 人増。
委員	切り絵体験に参加した。とても面白かった。体験したおかげで作品がより素晴らしいなど。こんな風な作業の中でこれができるているのだと感じられてとても良い体験だった。
事務局	次第 3 (2) 報告事項⑤東公民館サークル発表会について 1 日目 283 人、2 日目 256 人、計 539 人で昨年 510 人。天気にも恵まれたこともあり、微増。発表部門が 12 団体出演。この調子で来年度も企画して頑張っていきたい。
委員	音楽の発信力はすごいなと。本当に席が満席になる。ステージに出演する側としては小規模ながら一生懸命してきたものを観て下さる方がいて、その反応でみんな元気づけられていくことがあり、演者と観客の出会いの場が大事で、それも活動を継続する動機付けになっているなというのはいつも感じている。準備する方は大変なことがたくさんあると思うので、感謝すると共に続けてほしいなと思う。 東公民館は駐車場が広く、建物も大きいからそういう利もあるかと。

議事の経過	
発言者	発言内容
事務局	<p>次第4 その他 公民館運営審議会委員関係の会議について</p> <p>【資料4】に基づき説明</p>
	<p>次第5 閉会 副委員長あいさつ</p> <p>長時間に渡りありがとうございました。本日はありがとうございました。</p>
公民館長	<p>閉会宣言</p> <p>以上で令和7年度桶川市公民館運営審議会第1回定例会を閉会とする。</p>